

季刊

博物館だより

FUKUSHIMA MUSEUM
QUARTERLY

URL <http://www.general-museum.fks.ed.jp>

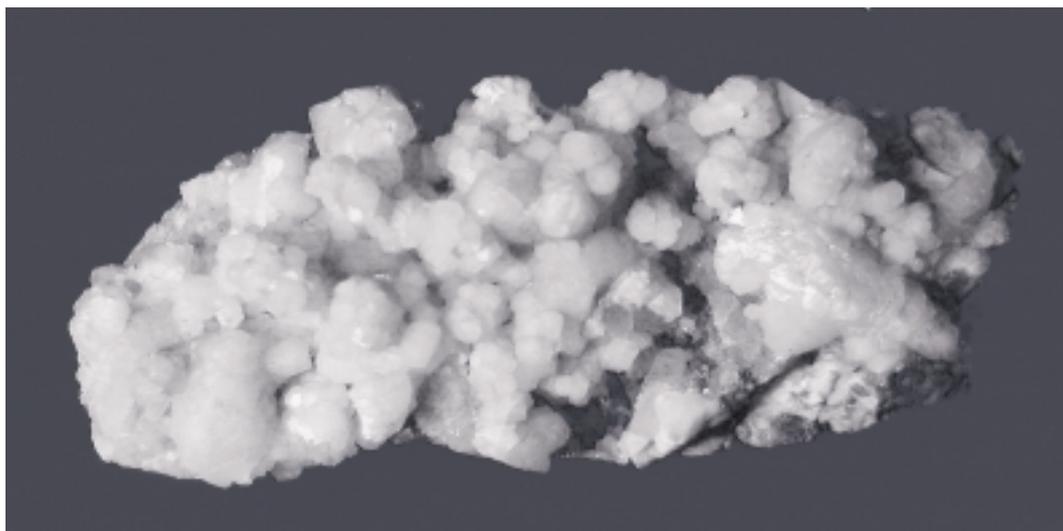
68

収蔵資料品展

鈴木舜一

鉱物コレクション展

福島県立博物館



方解石 宮城県鷲沢町 細倉鉱山

「概要」

この収蔵資料品展では、鈴木舜一氏よりご寄贈いただいた地質学関係資料の中から、かつて日本各地の金属鉱山で採掘された鉱石・鉱物を中心としたコレクションをご紹介します。

東北大学名誉教授鈴木舜一氏は会津若松市のご出身です。鈴木氏は東北大学で地質学を学ばれた後、昭和三十一年に同大学で工学博士の学位を取得されました。その後、工学部資源工学科での研究生活に入られ、長年にわたり、地下資源の成因に関する研究と教育にたずさわってこられました。鈴木氏は応用鉱物学を研究の基盤とされ、その上に立ってさまざまな金属鉱床の成因、石炭の形成過程、粘土鉱物の組織と成因などの解明に努められて数多くの成果をあげてこられました。このような活動の中で、研究の基本材料となる各地鉱山の鉱石・鉱物をはじめ、火山岩や堆積岩、石炭、さらに化石など、多数の地質学資料（試料）を収集してこられました。資料を収集された地域は、日本各地の鉱山はもとより、ドイツなど外国にも及んでいます。

鈴木氏は平成四年に東北大学を退官されましたが、それに当たり、これらの地質学資料を一括して当館へご寄贈下さいました。その後当館では、鈴木氏より直接のご指導をいただきつつ、これらの資料の整理と標本化を順次進めてきましたが、暫く前に作業を完了し、このたび収蔵資料品展としてご紹介する次第です。

鈴木氏のコレクションは、やはりかつて日本各地の金属鉱山で採掘された鉱石標本がその中核をなしています。現在、日本国内で稼行中の金属鉱山はごくわずかしがなく、そのためこれらの標本類は、今後はほとんど手に入れることができないものばかりです。その中には、会津の横田鉱山や田代鉱山をはじめとする福島県内各地の鉱山で採掘された鉱石も多数含まれています。また、岩石や化石も含めたコレクションの総数は一五八二点にのぼっています。

かつて、鉱山は全国各地で開発され、ヤマがにぎわった歴史があります。地下資源を利用するには大規模な鉱業的開発が必要で、それらはさまざまな加工を経た後に、ようやく私たちの手元で使われるようになりますが、そのおもとである鉱物・鉱石自体は、本来私たちの身近な自然の中にあるものです。この展示では、かつて私たちの周囲で採掘されていた鉱石を前に、資源・自然・私たちの生活の関係について振り返る機会になればと考えています。

収蔵資料品展

鈴木舜一 鉱物コレクション展

会期 平成15年4月26日(土)~6月15日(日)



黄 鉱
秋田県小坂町 小坂鉱山



黒 鉱
岩手県安代町・秋田県鹿角市 花輪鉱山

〔展示内容〕

1. 金属鉱山と鉱石

鉱石とはどんなものなのか？ どんな種類があるのか？ 何に使ったのか？などを、鉱石（鉱物）の種類別に展示してご紹介します。

2. さまざまな副産物

鉱山では、目的とする鉱石といっしょに、さまざまな鉱物が副産物として掘り出されてきます。その中には、利用価値は少ないけれども美しい結晶を示すものも少なくありません。

3. 石炭の顔立ち

かつては、国内産の石炭も 黒いダイヤ と呼ばれ、エネルギー資源の花形でした。一見地味な見かけの黒ダイヤですが、産地によってその 顔立ち がちがいます。

※このほか、鈴木氏のご研究の経歴や、最近興味を持たれている分野の話題などについてもご紹介する予定です。

〔主な展示資料〕

黒鉱（金山町 田代鉱山） 黄鉱（只見町 黒沢鉱山） 石膏（会津若松市 石ヶ森鉱山）

閃亜鉛鉱（館岩村 八総鉱山） 金銀鉱（郡山市 高玉鉱山） 黄銅鉱、ザクロ石（いわき市 八茎鉱山） 石炭（いわき市 常磐炭田）など



金銀鉱
秋田県小坂町 小坂鉱山



石炭
福島県いわき市 常磐炭鉱

収蔵資料品展開連行事のお知らせ

展示解説会

日時 四月二十六日（土）午後一時半

講師 東北大学名誉教授 鈴木舜一氏

日時 五月四日（日）午後一時半

六月八日（日）午後一時半

講師 当館学芸員 相田 優

場所はともに収蔵資料展示室です。

（常設展チケットをお買い求めください。）

収蔵資料品展《鈴木舜一鉱物コレクション展》は平成二五年四月二六日（土）から六月一五日（日）まで開催しています。観覧料 常設展観覧料をご覧ください。

講座要旨 収蔵資料品展記念考古学講座

平成一五年二月九日(日)

「長井前ノ山古墳の発掘調査」

講師 当館学芸員 菊地 芳朗

今回の講座は、平成一四年度第二回収蔵資料品展「長井前ノ山古墳と周辺の遺跡」に合わせて開催したもので、調査の経緯、おもな成果、その意義などを、資料やスライドをもとに紹介しました。

調査の経緯

河沼郡会津坂下町にある長井前ノ山古墳の調査は、県立博物館の調査研究事業の一環として五カ年計画で実施されたもので、一年目(一九九八年)に現地見学、二年目に測量調査、三年目に物理探査と第一次発掘調査、四年目に第二次発掘調査、五年目(二〇〇二年)に第三次発掘調査がおこなわれ、五年目の末に一定の成果がまとめられる予定です。



物理探査とは、地中に電波や電気を流してその反射や抵抗をもとに埋没している遺構や遺物の状態を探り、発掘調査の参考にしようとする調査方法です。これによって古墳の後円部中央に東西方向に主軸をもつ棺が埋まっていることがわかりました。第一次発掘調査では古墳の形と大きさを求め、第二次発掘調査では遺体が

収められた場所(埋葬施設)の調査を中心におこない、第三次発掘調査ではそれまで不足していた情報を補うための調査をおこなっています。

おもな成果

墳丘部分の調査では、長井前ノ山古墳が全長三六の前方後円墳であること、後円部が階段状に二段に築かれていること、墓石や埴輪が用いられていないことなどがわかりました。

埋葬施設の調査では、遺体が石棺に収められていたこと、石棺の蓋石が屋根形をした「合掌形石棺」と呼ばれるものであること、石棺全体が粘土と大き目の石で丁寧に包まれていたことなどがわかりました。とくに合掌形石棺は福島県で初めて見つかった貴重なものです。残念なこと、中世に一度石棺が開けられていたため副葬品はほとんど残っており、首飾りの一部とみられる錫製の玉五点と、鉄片がわずかに出土したのみでした。以上をもとにすると、古墳がつくられたのは古墳時代中期の五世紀と考えられます。

一方、石棺の内部やその周囲からは一三世紀初めごろの壺や仏具が出土し、古墳が中世に再利用されていたことがわかりました。これは経塚または火葬墓と考えられますが、いずれかに断定することはできませんでした。調査の意義

長井前ノ山古墳は会津盆地の古墳のなかでは一八番目の大ききで、けっして大型の古墳とはいえませんが、五世紀にかぎってみれば東北地方で最大規模の古墳の一つ

になります。また、合掌形石棺は長野盆地に全国の例の大半が集中し、ここには朝鮮半島からの渡来人やその関係者が葬られたという意見が有力です。

近年、長井前ノ山古墳周辺の会津盆地西部からは五世紀の重要な遺跡が次々に見つかっています。会津坂下町の中平遺跡は鍛冶工房をもつ大きな村の跡で、当時会津盆地でも鉄器が生産されていたことが明らかになりました。耶麻郡塩川町の古屋敷遺跡は二重の堀をめぐらす大規模な遺跡で、豪族の館跡と考えられます。また、これまで会津盆地では五世紀以降になると古墳の築造が低調になると考えられてきましたが、長井前ノ山古墳の調査をもとにすれば、五世紀には中小の古墳が少なからずつくられていたことが考えられるようになり、従来の考えには再検討が求められます。

これらを総合すると、長井前ノ山古墳に葬られた人物は、会津盆地西部に拠点を置いた有力者で、とくに日本海側のルートを通じて他地域と密接な交流をおこなっていたことが考えられます。

会場には、地元会津坂下町の方々をはじめとする多くの考古学ファンが詰めかけ、熱心に耳を傾けてくださいました。また、講座終了後には展示解説会が開かれ、これまた多くの方々にご参加いただきました。



白虎隊を描いた絵

川延安直 美術担当

幕末の戊辰戦争の悲劇を象徴する出来事が会津若松城下の戦闘中に起こった飯盛山での白虎隊の集団自決です。この出来事は白虎隊の悲劇として出版物や絵画、演劇によって現在に至るまで語り継がれています。しかし、この間、白虎隊のイメージは凄惨な悲劇から忠臣話へ、そして純粋な青年の物語へと変化していきました。さらに近年では観光資源としてのキャラクター化もこれに加わり土産物店を賑わしています。

こうした「白虎隊のイメージ」の変化に、絵画化された白虎隊、「描かれた白虎隊」も役割を果たしました。一部の例外を除いて「描かれた白虎隊」のほとんどは、自刃の場面を描く「白虎隊自刃図」です。画家の脳裏にある白虎隊は集団自決の悲劇に強く結びついていたのです。出版物には出陣に際しての個々の隊士のエピソードを伝えるものもあり、絵画に描くのに適した場面は自刃の場面だけには限りません。しかし、ほとんどの作品は自刃の場面を描いています。白虎隊＝青少年の集団自決というイメージが定着していたのでしょう。それらの作品は大きくその特徴から三期に分類することができます。

最も早い一期の「白虎隊自刃図」が会津若松市、会津武家屋敷に所蔵される穂積朝春筆の二点です。両図とも明治二三年（一八六九・一八七〇）頃の制作で、



穂積朝春筆「白虎隊自刃図」(会津若松市蔵)

画家の穂積朝春はもと会津藩士の一ノ瀬勘助。会津武家屋敷本は朝春が東京で謹慎中に描いたものとされます。会津若松市本には同じく元会津藩士北原雅永による若い命の早すぎる死を悼む賛文があります。両図は会津藩士が制作に関与しているのです。明治三年の同工の一図(個人蔵)を含め、これらの作品は以後の「白虎隊自刃図」の原点に位置づけられるものです。

その特徴は稚拙な筆致ながらも内臓が飛び出す凄惨な状態も含め、着衣、軍装などが丹念に描かれている点にあります。これらの作品には会津藩士らによる自刃した白虎隊士への鎮魂と慰霊の思いが込められているのではないのでしょうか。

続いて第二期に分類できるのが、明治前期の錦絵「白虎隊英勇鑑」、明治一六年の渡辺文三郎原画「白虎隊自刃図」石版画などです。「白虎隊英勇鑑」は地面に血と内臓があふれ血まみれで隊士が倒れ伏す凄惨な画面です。絵師の情熱は自刃の悲劇性よりも凄惨さの強調に向けられていたのでしょう。



「白虎隊英勇鑑」(明治時代前期)

「白虎隊自刃図」石版画は在京の会津出身者が当時の状況を伝えるために頒布を企画したもので、原画は洋画家の渡辺文三郎によるものです。明治二四年にも岡村政子の手で再版されました。石版画による立体表現がそれまでの作例には見られなかった現実感を醸し出し、苦悶にゆがむ隊士の表情が真に迫ります。

続く明治後期から大正、昭和の第三期の自刃図では凄惨な描写が少なくなり、画面の一方に若松城下を望む白虎隊士、一方に炎上する城下を配する構図が定着します。また一期、二期の作品では隊士を洋装に描いていたのが、

この時期では時代考証を無視して和装に描かれるようになります。実際には隊士は戦闘での便利さからシャツとズボンの洋装であったと考えられます。洋装の白虎隊士の姿は飯盛山上の宇賀神堂に祀られている「白虎隊十九士木像」が典型的なものでしょう。同木像は会津の多才な木彫家大橋知伸の正確な考証に基づくものと言われています。

これらの作品では一期、二期の作品の凄惨さは薄められ、哀切な情感を漂わせています。会津若松出身の画家渡部雅堂、佐野石峰の作品などがその典型でしょう。こうして見ると「白虎隊自刃図」の変化は、白虎隊士の慰霊から顕彰、そして賛美へとその制作目的が変化した過程を反映しているように思われます。

最後に現代の白虎隊イメージを反映しているさまざまなキャラクターグッズにも触れておきましょう。その多くは和装の白虎隊士の流れを汲んでいます。中には胴衣を着けたまるで剣道部員のようなものも見られます。またもう一つの特徴として隊士が実際の白虎隊より低年齢の子どもとして扱われています。キャラクターグッズの白虎隊士の一般的な姿は剣道の教室へ楽しそうに通う小学生のようです。もちろんこれは史実からは大きく逸脱したイメージですが、もしかすると出陣する白虎隊士の心の片隅にこんな子どもらしい気持ちもあつたのではないのでしょうか。

福島県、特に会津若松周辺の人々にとってあまりにも親しい存在である白虎隊ですが、もう一度白虎隊のイメージを整理検討してみたいと調査を続けています。白虎隊に関する絵画、資料の情報があまりましたら是非一報下さい。



渡部雅堂「白虎隊自刃図」(昭和15年)

Q：江戸時代には、参勤交代の制度ができあがり、全国の大名たちが行列を仕立てて国元と江戸を往復していたことを社会科の授業で学びました。

大名行列の人数は、どのくらいだったのですか？

A：殿様（藩主）や家来たちはもちろんですが、そのお供の者や荷物を運ぶ人足たちを加えると、行列の人数はたいへんなものになりました。会津藩では、最盛期には六百名近くになったようです。幕府では、石高に依じて行列の人数を制限し、また藩の側でもしだいに人数を減らしてゆきます。しかし一方では、周囲の評判を気にして人数削減に反対する意見も藩内に根強く残りました。このことから、大名行列は、見栄えをたいへん気にするパレードでもあったことがわかります。

大名行列



の回りの品から、藩主の使う風呂桶まで運んだという記録もあります。

Q：行列は、一日にどれくらい進んだのですか？

A：ある年に、泉藩主の行列が浜通りの街道を江戸にのぼった時の記録によると、一日平均四〇km近く歩いています。夜明け前、まだ暗いうちに出発し、夕方、日の暮れる前には宿泊地に到着しました。この時は暑さが厳しかったようで、駕籠を担ぐ人足たちが途中で疲れてしまいいベースが落ちたということも書かれています。

Q：道中では、どんな食事をしていたの？

A：たとえば、相馬中村藩主の本陣での食事の献立には、御飯・汁・香物の他に、鮭塩引粕煮、するめ・いんげん・にんじんの和え物や、「玉子ふわふわ」という名前の

Q&A

回答者
歴史担当
高橋 充

の卵料理などが見られます。宿（本陣）の主人が、食材を差し入れることもありました。

この他にも大名行列については、まだまだ知られていないことがたくさんあります。「大名たちがこだわった行列の飾りの意味は？」「行列はいつも揃って行進していたの？」「行列のなかにアルバイトがいたって本当？」「沿道の人々は本当に土下座したの？」等等。

今回のQ&Aの内容も含めて、これらの疑問については、当館発行の企画展図録『武者たちが通る 行列絵図の世界』（八百円 送料別）の中で、福島県域の諸藩の事例をまじえながら、詳しく解説しています。ぜひお買い求めください。



会津藩主参勤交代行列図（部分 会津若松市蔵）

トピックス

「ホームページ開設」

昨年の一〇月末に福島県立博物館のホームページが開設されました。ホームページアドレスは前号より、表紙の題字のところに載せてありますのでぜひアクセスしてみてください。

トップページは左のようになっていきます。いろいろな内容になっていきますが、これから修学旅行や遠足の季節になりますので、ここでは特に学校関係の方に役立つページを紹介いたします。

まず、『学校団体利用の手引き』です。このページでは修学旅行や遠足、または総合学習で当館を訪れる際の留意点や当館にある学習用具・教材等の貸し出しについて知ることができます。

次に『売店案内』では、当館の出版物についての情報が掲載されています。企画展図録や教育普及図書などの当館の出版物の中には、学校での勉強に役立つものもきっとあると思います。出版物の郵送についてのお知らせもありますのでぜひ見て下さい。

最後に『ダウンロードサービス』では、ワークシート、観覧料免除申請書等がダウンロードできます。ワークシートは、常設展示室の資料をよく見て自分の考えを書くようになっていきます。当館での調べ学習にぜひ役立て下さい。

これらの他に、企画展情報や展示室の様子等、当館についての詳しい情報が載っています。

さあ、あなたも福島県立博物館のホームページを見てみましょう！

福島県立博物館
Fukushima Museum

サイトインデックス
館長のご挨拶
企画展のご案内
イベントカレンダー
利用・交通案内
博物館のご案内
学校団体利用の手引き
売店のご案内
ダウンロードサービス
リンクサイト
English here
Foods here

★夏の企画展のご案内

★夏の企画展のご案内

※PDFファイルをご覧いただくには
Adobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の Adobe Acrobat Readerが必要です。
[Get Acrobat Reader]
ダウンロードするにはこちらから

■夏の企画展「長井前ノ山古墳と周辺の遺跡」開催中
（3月23日まで）

■歴史・美術テーマ展示「道のうつわ」開催中
（3月30日まで）

■全曜講座「遠代を先がけて」(3月28日)

■収蔵資料品展「長井前ノ山古墳と周辺の遺跡」(3月1日)

■総合講座「磐梯山を語る」(3月28日、3月30日)

—その他の予定はこちら—

お知らせ

●売店のご案内に「紀要目録」を追加しました。(2月8日)
★参加募集
●夏季講座員募集「小島のやじろべえをつくらう」(3月8日)

企画展のご案内

■夏の収蔵資料品展「長井前ノ山古墳と周辺の遺跡」
県立博物館は、1999年から継続して、会津坂下町の長井前ノ山古墳の発掘調査を行っています。その調査結果と会津盆地の古墳時代の最新の研究成果を紹介します。

●会期
平成15年2月1日(土)～ 3月23日(日)
※常設展観覧料でご覧いただけます。
●収蔵資料品展「長井前ノ山古墳と周辺の遺跡」
3月1日(土) 14:00～
●休館日
・毎週月曜日

夏の企画展予告

「発掘された日本列島 二〇〇三」 「発掘ふくしま 三」

今回の企画展は、『発掘された日本列島 二〇〇三』と『発掘ふくしま 三』の二部構成となります。

『発掘された日本列島 二〇〇三』は、文化庁が主催する新発見考古速報展で、毎年全国各地を巡回しているものです。この展示は、最近注目を集めた遺跡を中心に出土品を全国から集め、わかりやすく紹介するとともに、埋蔵文化財保護行政の現状について考えてもらうという趣旨で開催されています。今回は、当館のほか、東京都江戸東京博物館、浜松市博物館、北九州市立自然史・歴史博物館などを巡回する予定です。

『発掘ふくしま 三』では、過去五年ほどの間に県内で実施された発掘調査の成果を中心にとりあげ、新たにどのようなことがわかり、どのようなことが問題となってきたかについてわかりやすく紹介いたします。

夏休みのひととき、「いにしえの語らひ」へぜひおでかけください。



夏の企画展「発掘された日本列島 二〇〇三」は平成一五年七月一五日(火)から八月一三日(水)まで、「発掘ふくしま 三」は平成一五年八月二〇日(水)から九月三日(火)まで
観覧料(予定) 一般・大学生五〇〇円/高校生三〇〇円/小・中学生一〇〇円

常設展示室「歴史・美術」テーマ展示

「山川浩と山川健次郎」
 会期 四月一五日(火)から五月二五日(日)まで
 会津出身の軍人山川浩と学者健次郎兄弟関係の近代資料を中心に展示します。
 「津田得民の仕事 近現代の漆工芸」
 会期 六月三日(火)から七月六日(日)まで
 大正・昭和の蒔絵師・津田得民。その圖案や作品を中心に近現代の漆工芸をご紹介します。

講演・講座

開催場所が書いていないものは当館で行います。

- 美術講座
 「福島の仏像³¹」
 講師 当館学芸課長 若林 繁
 日時 四月二二日(土)午後一時半
 「暮らしの中の美術¹」
 講師 当館学芸員 川延安直・小林めぐみ
 日時 五月一四日(水)午後一時半
 「暮らしの中の美術²」
 講師 当館学芸員 川延安直・小林めぐみ
 日時 六月二一日(水)午後一時半
- 歴史講座
 「古文書入門¹ 近世」(実技)
 講師 当館学芸員 酒井耕造
 日時 四月一九日(土)午後一時半
 「古文書入門² 近世」(実技)
 講師 当館学芸員 酒井耕造

- 日時 五月三一日(土)午後一時半
 「古文書入門³ 近世」(実技)
 講師 当館学芸員 酒井耕造
 日時 六月二八日(土)午後一時半
 「山川家資料について」
 講師 当館学芸員 佐藤洋一
 日時 五月一〇日(土)午後一時半

総合講座

- 「若松城を歩く¹ 鶴ヶ城跡探検」
 (野外)要申込
 講師 当館学芸員 高橋 充
 日時 五月二一日(日)午後一時半
 「若松城を歩く² 鶴ヶ城のあるじたち」
 (講話)
 講師 当館学芸員 川延安直・高橋 充
 日時 六月一日(日)午後一時半

民俗講座

- 「只見の漁と食」(映画会)
 講師 当館学芸員 榎 陽介
 日時 五月一七日(土)午後一時半

自然史講座 要申込

- 「鉱物を見つけよう」(野外)(只見町・館岩村)
 講師 当館学芸員 竹谷陽二郎
 日時 五月二四日(土)午前八時半
 「鉱物を調べよう」(実技)
 講師 当館学芸員 相田 優
 日時 五月二五日(日)午後一時半

収蔵資料品展示解説会

- 講師 東北大学名誉教授 鈴木舜一さん
 日時 四月二六日(土)午後一時半

- 講師 当館学芸員 相田 優
 日時 五月四日(日)午後一時半
 講師 当館学芸員 相田 優
 日時 六月八日(日)午後一時半

郡山市ふれあい科学館との連携事業
 「一〇〇年前の実験に挑戦」

石井研堂の理科読み物の世界
 講師 郡山市ふれあい科学館職員・当館学芸員

- 日時 四月二〇日(日)午後二時
 当館実習室

実演

場所 体験学習室 入場無料

- 「昔語り」
 語り部 横山幸子さん
 日時 四月二〇日(日)午前二〇時半
 日時 五月一八日(日)午前二〇時半
 語り部 山田登志美さん
 日時 四月二七日(日)午後一時半

「機織り」

染織工芸家 山根正平さん
 日時 四月二九日(火・祝)午後一時半

「会津の唐人風つくり」
 技術伝承者 鈴木英夫さん

日時 五月三日(土・祝)午後一時半

伝統技術実演

「いわきの絵のぼり製作」
 伝統技術保持者 石川 進さん

石川貞治さん

日時 五月五日(祝)午後一時半

常設展無料開放日

五月五日(こどもの日)

四、六月の休館日

- 四月 七月(月)・一四日(月)・二二日(月)・二八日(月)・三〇日(水)
 五月 六日(火)・一二日(月)・一九日(月)・二六日(月)
 六月 二日(月)・九日(月)・一六日(月)・二三日(月)・三〇日(月)

四月から、小・中学生、高校生は、常設展観覧が無料となります。

五月一八日(日)は、国際博物館の日です。

行事等の詳細に関しましては博物館ホームページやホームページをご覧ください。